書　評　Book Review

先天異常の医学

木田盈四郎 著

中公新書 643，224 ページ，定価480 円，中央公論社

遺伝病や胎児異常の理解のために，臨床遺伝学の専門医が，基礎知識を明快に書いた好著である．

細胞，染色体，遺伝子の解説から始まり，その研究方法まで詳しく記述してある．遺伝子の病気については遺伝子の働き，その異常によって起こる病気，遺伝子と染色体障害の起こり方が説明されている．胎児に起こる病気には薬物による催奇性の問題が例をあげて述べられ，ヒトの胎児障害の原因にふれている．サリドマイド事件にかなりのページを費やしてその問題を批判的に述べている．四肢障害をもつ子どもたちについては父母の会との接触，障害の分類を遺伝学的に説明し，集団検診による障害児の頻度と遺伝様式が述べられている．

先天異常と人類の未来と題して，先天異常の産まれる割合を世界各国から資料をあげて説明し，その他，患者調査の目的，厚生省の遺伝毒性対策，その根本にある問題，優生学の解説，ヒトラーの優生政策，文部省と優生学，遺伝相談，遺伝病の治療，遺伝病に対する社会的政策などが平易に述べられている．

著者が多くの障害児と家族に接してきた体験と知識をもとに，先天異常をめぐるさまざまな問題にふれた著作で，人の親，福祉関係者，一般臨床家，患者をもつ家族や近親者にとって必須な内容が盛られ，しかも解説が平易である点において優れている．寝転んで読める本ではない．あくまで研究的であるが人間にとって重要な問題を含む著作である．

（北大名誉教授　牧野佐二郎）